

【総合的な学習の時間】 第9回授業 指導案

芝浦工業大学柏中学高等学校 探究科

1. 単元名 仮説について

2. 本時の概要

本時は、日々の学びを駆動する「LIFEログ」の運用と、探究活動の核心である「仮説の立案」の二点を扱う。探究活動では、リサーチクエスション(RQ)に対する予想される答えとしての「仮説」の定義を確認し、情報収集に基づいた論理的な仮説設定と、その検証方法の検討プロセスを学習する。

探究活動が本格化する中、調べればすぐに答えが出る問いから脱却し、粘り強く思考し続けるためのRQと仮説の構築が必要となっている。事実と論拠に基づき仮説を立てる経験は、論理的思考力を養うとともに、今後の調査計画を具体化させ、探究を深めるために不可欠なステップである。

3. 本時の目標

- **LIFEログの意義と方法の理解:** 「LIFEログ」の意義とルーブリック(レベル3)を理解し、日々の体験から自己の成長や課題を言語化する「成長に繋がる振り返り」を記述できるようになる。
- **リサーチクエスションに対し仮説を設定:** 探究における「仮説」を「RQに対する予想される答え」と定義し、情報収集で得た事実やデータに基づいた根拠のある仮説を、自身のテーマに沿って複数立案できる。
- **仮説の検証方法の検討:** 立てた仮説を検証するために、どのような事実やデータが必要かを考え、具体的な調査方法(文献調査やインタビュー等)を検討して探究計画を具体化できる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- **教員用提示資料:**
 - 授業スライド 第9回
- **使用教材(副教材):**
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- **参考文献:**
 - 松下佳代(2021)『対話型論証による学びのデザイン 学校で身につけてほしいたった一つのこと』勁草書房

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
1分	本時の内容確認 ・本時の二大項目である「LIFEログ」と「仮説について」の学習予定を確認する。 ・探究活動の全体像における現在の立ち位置を把握する。	・本時のゴールを明確に示し、見通しを持たせる。
4分	LIFEログの概要理解 ・「今日の振り返りが、明日の自分をつくる」という意義を理解する。 ・事実・評価・変化の3段階のルーブリックを確認し、レベル3（次につなげる振り返り）を目指す重要性を学ぶ。 ・内容を一言で表すタイトルの付け方を理解する。	・レベル3の具体例を示し、変化を言語化するコツを伝える。
10分	LIFEログの記入 ・教科学習、探究、学校行事・部活動等の3項目について、直近の活動を振り返り記入する。 ・各自、自分の言葉で、タイトルを含めた内容を端末に入力する。	・教員は巡回し、記入が止まっている生徒に具体的な問いかけ（「どんな変化があった？」等）を行う。 ・項目が足りない場合は適宜複製して追加できることを伝える。
10分	仮説立案の理論学習 ・仮説とは「RQに対する予想される答え」であることを理解する。 ・仮説には必ず「理由（情報収集で得た事実）」が必要であることを確認する。 ・1つのRQに対して複数の仮説が立てられること、検証方法（どのデータが必要か）をセットで考えることを学ぶ。	・「なんとなく」ではなく、既知の事実やデータから論理的に導く「論拠」の重要性を強調する。 ・医療の診察の例など、身近な例を用いてイメージを具体化させる。
25分	探究ノートへの仮説記入 ・自身の探究テーマについて、問いを具体化・発展させてRQを設定する。 ・設定したRQに対し、根拠を添えた仮説を記入する。 ・その仮説を確かめるための調査方法を分解して検討し、計画を立てる。	・巡回し、RQが「調べればすぐ答えが出る問い」になっていないか確認し、具体化を支援する。 ・「仮説を立てる→必要な事実を考える→調査方法を決める」の思考プロセスを個別に助言する。